

| | | | | | | |
|----------|-------------------|----|---------|----|-----|------|
| 授業科目名・形態 | 在宅ケア論 I | 講義 | 必修・選択の別 | 必修 | 単位数 | 2 |
| 科目担当者氏名 | 石川セツ子・芳賀 邦子・黒澤 繭子 | | 実務経験の有無 | 有 | 開講期 | 2年前期 |

【授業の主題】

高齢化社会を背景に健康概念に関する理解を深め、現状の健康問題について考える姿勢を養う。その上で在宅療養者とその家族に対する特性を理解し、対象者の多様なニーズへの対応、セルフケア能力の向上、在宅療養者へのQOLを重視した支援方法について講義する。

【到達目標】

- 1) 社会状況を取り巻く在宅ケアの必要性和社会的背景を知るとともに、在宅看護の主な経緯と背景について理解する。
- 2) 在宅ケアの概念および倫理について理解し、在宅ケアの対象と地域包括ケアシステムへの取り組みについて知る。
- 3) 日常生活における様々な援助方法について演習を行い、体験により振り返りができ課題について考えることができる。
- 4) 在宅看護が時代の変化に対応できるよう、継続的につなぐ看護の必要性について学ぶ。

【授業計画・内容】

- 第1回 在宅看護の概念 (石川)
- 第2回 在宅看護をめぐる社会文化的背景① (石川)
- 第3回 在宅看護をめぐる社会文化的背景② (石川)
- 第4回 在宅看護の法的基盤とシステム① (石川)
介護保険制度、地域包括ケアシステム、介護保険サービスと利用状況
- 第5回 在宅看護の法的基盤とシステム② (石川)
訪問看護制度、在宅医療と診療報酬、居宅等における医行為
- 第6回 在宅看護における連携 (退院支援と連携、他職種との連携) (石川)
- 第7回 在宅看護過程の展開と倫理的課題 (石川)
- 第8回 在宅看護過程の事例展開① (石川)
- 第9回 在宅看護過程の事例展開② (石川)
- 第10回 在宅看護活動の技術とコミュニケーション (芳賀)
- 第11回 ヘルスアセスメントと看護技術① (在宅療養支援) (石川)
1) 食事 2) 口腔ケアと嚥下訓練 3) 排泄支援
4) 清潔ケア 5) 衣類・更衣 6) 洗髪 7) 移動の援助
- 第12回 ヘルスアセスメントと看護技術②グループワーク (石川)
- 第13回 ヘルスアセスメントと看護技術③グループワーク (石川)
- 第14回 ヘルスアセスメントと看護技術① (演習) (石川・黒澤・芳賀)
- 第15回 ヘルスアセスメントと看護技術② (演習) (石川・黒澤・芳賀)

【授業実施方法】

講義・演習・グループワークなど。

【授業準備】

社会背景と看護ニーズを関連づけて理解するため、厚生労働省「国民基礎調査」「地域包括ケアシステム」等の関連資料、参考書を読み、事前学習をしておいてください。

【主な関連する科目】

在宅ケア論 I・II、在宅ケア実習

【教科書等】

石垣和子・上野まり 編集：在宅ケア論 自分らしい生活の継続をめざして、南江堂、改定第2版

【参考文献】

平成30年度版訪問看護業務の手引き等、必要に応じ授業で紹介する。

【成績評価方法】

①前期定期試験 (90%)、②演習、グループワーク等による発言、発表 (10%) による総合評価。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

訪問看護業務運営・管理をはじめ、在宅ケアマネジメント業務、地域における看護大学等の臨地実習を引き受け20年間活動してきた。社会を取り巻く在宅ケアの必要性が理解できるように、これまでの実務経験を活かし、事例等を交えながら学習を進めていきたい。

【学生へのメッセージ】

- ①在宅看護に関する法規、最近の社会情勢や国、県、市町村の施策の動きを知り、在宅支援に関して意識を高めてください。
- ②社会状況の変化に伴い、時代の変化に対応できる看護について考え、将来的には、患者本人が望む場所で療養できるように、尊厳ある1人の人間として接していただきたい。